



咲く Love 通信

■「合唱コンクール」実行委員より■

合唱コンクールについて、実行委員のI君が熱い熱い思いを、やりとり帳2ページ分にぎっしり書いていたので、ご紹介します。

「本当に3-2で合唱コンができて良かった」と思える合唱コンクールでした。

最初、実行委員になった時、「何をしたらいいか」「どんな感じでやればいいのか」ってのが、よくわからない時の放課後に指揮者のオーディションがありました。僕はその時、オーディションが行われている教室の前で待っていたんですけど、すごく衝撃でした。指揮者に選ばれなかった人が顔に涙を浮かべていました。その時に「本気で挑む」というのは、こういう事なんだと感じました。それと同時に「勝ち負けがつく」というのはこういう事でもあるんだと感じました。全員の指揮が良かったと思ったけど、その中でも順位が付くんだと分かりました。それなら、涙を流した人もいるんだから、その人たちのためにも、そして自分のためにも「本気で勝ちたい」と思いました。

それから、皆で自由曲を「あなたへ」に決め、合唱コンクールの練習が始まりました。最初は全然まとまりがなくて、うまくいかないことが多くありました。そして、1回目のリハーサルを迎えました。リハーサルは声も出ていないし、音程も合っていませんでした。でも、その時、少しクラスの雰囲気が変わりました。皆の気持ちもだんだん「勝ちたい」に変わっていきました。そこかたたくさんの方が「本気」になりました。

自分の演奏で手がいっぱいのはずなのにアドバイスをくれた伴奏者、皆が歌いやすいように工夫をたくさん考えてくれた指揮者、細かいところまで気づいて、皆の合唱をより良い方向に導いてくれたパートリーダー、皆を一生懸命にするために色々工夫してくれた実行委員、そして何より朝早くから集まったり、休日にリモートするって言って文句なくやってくれて「本気」を示してくれたクラスのみんな。それぞれが、それぞれの一生懸命に応えて高め合っていました。

そして「本番」。みんなの中には「勝っても負けても一回きり」という気持ちがありました。でも、それ以上に「自分のすべてを出し切りたい」という気持ちが歌っているときに後ろからひひしと伝わってきました。2組の歌のいい所は、工夫だったり、ハーモニーだったり、沢山あるけれど、それ以上に「相手にも伝わってくる一生懸命さ」じゃないかと確信しました。これも皆が「一生懸命」を尽くしたからだと思います。

そ結果発表。「最優秀賞は……3年2組」と言われた時、今までにないほどの喜びの叫びをあげる人や涙を流す人がいました。これも全部、皆の「本気の証拠」です。そして、登壇して賞状をもらった時に嬉しすぎて、「ありがとうございました」と声が漏れました。そして、自分が2組のところに戻った時、皆の顔を見て、改めて、「3-2のみんなと合唱コンに出て、そして何よりみんなと紡いで、最優秀賞をとれてよかった」と思いました。協力してくれたみんなに改めて「ありがとう」を伝えたいです。3-2最高だあぁ！！！！

